



カソロン粒剤 (2.5)

農林水産省登録 第6746号

1/3

平成27年4月22日現在

適用雑草と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の 使用 回数	使用方法	D B N を 含む農業の 総使用回数
いぐさ	—	スズメノテッポウ ミズハコベ 水田一年生雑草 マツバイ	1～4月 (雑草発生始期)	壤土～埴土 (減水深0.5cm /日以下)	3～6kg/10a	2回 以内	湛水散布	2回 以内
しちとうい		水田一年生雑草 マツバイ ミズハコベ	移植後7～10日	腐植に富む 埴土～壤土 (減水深0.5cm /日以下)	3～4kg/10a			
日本芝		一年生雑草 多年生広葉雑草	秋期雑草発生 前～発生始期	壤土～埴土	8～10kg/10a (1m ² 当り 8～10g)			
水 稲 (刈取跡)	水 稲 刈取跡	マツバイ	水 稲 刈 取 後 7～10日まで		5～6kg/10a	1回		1回
樹 木 等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面等	一年生雑草	雑草の発生前 ～発生始期	—	17～20kg/10a (1m ² 当り 17～20g)	3回 以内	植栽地を 除く樹木 等の周辺 地に散布	3回 以内
		多年生広葉雑草 スギナ			20～40kg/10a (1m ² 当り 20～40g)			

カソロン25/TA03-27D



アグロ カネショウ株式会社

<https://www.agrokanesho.co.jp/>



⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- 雑草が大きくなると効果が劣るので、発生始めに使用する。
- 本剤はイネ科雑草に対しては効果が劣るので、イネ科雑草が優占する場所での使用はさける。
- 土壌が乾燥していると効果が不十分となるので、雨上がり等の土が湿った状態で使用することが望ましい。
- 本剤はまきむらによって効果が不均一になったり薬害の部分的発生が懸念されるので、特に均一散布に留意する。
- 多年生広葉雑草に対しては所定量を雑草の株元及びその周辺に散布する。
- 本剤は処理後地表面から薬剤が気化し、気象条件などによって滞留した場合、下枝の葉や果実に薬害を生じるおそれがあるので、風通しの悪い凹地など空気の滞留しやすい場所での使用はさける。
- いぐさ・しちとういに使用する場合、特に以下のことに注意する。
 - ① 土壌は埴土～壤土とし、かつ1日の減水深 0.5cm以下の漏水の少ない腐植含量の多いところで使用する。砂壤土や減水深の大きい水田では使用しない。
 - ② 本剤は湛水状態で散布し、散布後少なくとも3～4日間はそのまま湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
 - ③ 既発生の雑草には効果が劣るので、所定範囲内の多めの量を使用する。また、雑草の発生がだらだらとなる場合は、所定範囲内の多めの量を使用するか、概ね1ヶ月以上の間隔をあけて2回散布する。
- 水稲(刈取跡)に使用する場合、特に以下のことに注意する。
 - ① 本剤散布後の圃場は翌春までそのままにしておくのが最も効果的で秋耕はしない。
 - ② 翌春、水稲以外の作物を栽培する予定のある場合は使用しない。
- 次のような場所では薬害のおそれがあるので使用をさける。
 - ① 極端な砂質土壌。
 - ② そ菜(かぼちゃ、うり類など)、花き(菊など)、ホップなどの栽培園に隣接している場所及びその栽培予定地。
 - ③ 新植後3年未満又は間作予定の果樹園。
 - ④ **ハウス、温室などの施設内及びその周辺並びにそれらの設置予定地。**
 - ⑤ 移植後間もない樹木の周辺。
 - ⑥ 本剤に影響を受けやすい樹種(マツ類、モクセイ類、モミ類、ニワウメ、ヒノキ、コウヤマキ、イチジク)等の樹冠下。
- 公園・堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意する。
 - ① 激しい降雨の予想される場合は使用をさける。
 - ② 本剤の飛散あるいは流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分注意して散布する。
 - ③ 水源池等に本剤が飛散・流入しないよう十分注意する。
 - ④ 関係者以外は作業現場に近づかせない。小児、通行人、家畜などに留意する。散布後(最小限その当日)も散布区域に縄囲いや立て札をたて立ち入らせない。
- 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⚠ 安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換する。





安全使用上の注意 (つづき)

- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、使用中及び使用后（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管する。

治 療 法…該当なし

魚毒性等…水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養殖池等周辺での使用はさける。

保 管…密封し、直射日光をさけ、種子、苗、肥料、他の農薬などと隔離し、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

